第19講　戦争への道と敗戦
PART1 大戦景気と戦後恐慌・震災恐慌

Chapter 1　大戦景気

目標
大戦景気の原因を知ろう。
大戦景気で庶民は豊かにならなかったのはなぜだろう？

1　大戦景気の原因

第一次世界大戦（1914 ～ 18 年）中を中心とする“大正バブル”的な好景気を〔1　　　　　　〕といい，1915 ～ 19 年頃まで続いた。

①**ヨーロッパにおける生産力低下と需要増大→**軍需品・日用品の大量輸出
②〔2　　　　〕・東南アジア・アフリカ市場への進出**→綿織物**・綿糸輸出の伸張
③**アメリカの好景気→**アメリカ向け〔3　　　　〕輸出の伸張

2　大戦景気の展開

①貿易**→輸出超過**（1915 ～ 18 年）となる
　A　11 億円の債務国（1914 年）から 27 億円の**債権国**へ（1920 年）
　　日露戦争後の不景気・財政危機を一気に脱出。
　　正貨＝金保有高は急増したが，列国にならい金輸出は 1917 年に禁止とした。
　B　企業買収を繰り返し神戸の〔4　　　　　　〕（番頭＝金子直吉）が急成長
②海運・造船**→船成金**の発生
　世界的な船舶不足のため発展。日本は英・米に次ぐ世界第 3 位の海運国に躍進。
③鉄鋼**→鉄成金**の発生
　世界的な鉄不足・造船業の躍進により発展。
　官営八幡製鉄所の再拡張や日本鋼管など民間会社の設立が相次ぎ，
　中国にも**満鉄鞍山製鉄所**が設立された。
④化学→敵国となった〔5　　　　　〕からの輸入途絶
　薬品・染料・肥料などの国産化を目指し，**化学工業が勃興**した。

⑤電力→**水力発電**の発達

猪苗代水力発電所（福島県）～東京間の長距離送電に成功（1915年）。

※電灯の農村部への普及，工業動力の蒸気力から電力への転換も進んだ。

⑥繊維→製品輸出＋紡績業における**資本輸出**

綿織物・綿糸や生糸の輸出が激増。国内の賃金が上昇したため，

大戦後は中国の上海・青島などでの現地工場経営（＝**在華紡**）も行われた。

3 大戦景気の結果

①**工業生産額が農業生産額を追い越す**（1918年）

軽工業部門の躍進と重化学工業化の進展により，

アジア最大の工業国となるが，それでも工業人口は農業人口の半数以下。

※農業も野菜・果樹生産や牧畜業など商業的農業の発展がみられたが，

農産物と工業製品との価格差の拡大は顕著となる。

②**労働者数の激増**→男性が女性の数に迫る

大戦前の1.5倍以上になるが，物価上昇率に賃金上昇率が追いつかず実質賃金は低下。

③**都市の発展**→農村人口が流出し都市人口が激増

A 商業・サービス業の発展→新中間層の創出

B 四大工業地帯（京浜・阪神・中京・北九州）の形成

④資本の独占・集中傾向

A **成金**の出現と物価高騰による民衆の生活苦

→米騒動（1918年）

B **財閥**による産業支配の確立

成金

まとめ
ヨーロッパ・アジア・アメリカへの輸出が伸びたことで大戦景気となった。
大戦景気では物価上昇率に賃金上昇率が追いつかなかった。

Chapter 2　戦後恐慌と震災恐慌

目標
戦後恐慌の原因を知ろう。
戦後恐慌と震災恐慌の最大の違いは何だろう？

1　戦後恐慌（1920年）

1918 年に第一次世界大戦が終結すると，
ほぼ無競争状態の大戦景気（1915 ～ 19 年）は終焉し国際競争が復活。
1920 年に反動的な［1　　　　　　　　］が発生した。

①原因→**ヨーロッパ諸国の復興**
　輸出不振・生産過剰により日本の株価が暴落。
②経過→輸入超過（1919 年～）
　銀行が閉鎖・休業に追い込まれ，工場の操業時間短縮により失業者も増大。
　※軽工業では生糸・綿糸相場が暴落，重化学工業製品も欧米からの輸入が増加。
③結果
　原敬内閣は，**日本銀行を通じ市中銀行に多額の救済融資を実施**。
　このため，財界の整理や企業の合理化が十分進まず，
　国際競争力が付かないまま不況は長期化した。
　A　成金の没落・中小企業の延命・**財閥の成長**
　B　労働運動の階級闘争主義化
　C　**慢性的不況の定着**

2 震災恐慌（1923年）

1923年，不況が慢性化して銀行・企業の体力が落ちていたところへ，
予想もしない**震災恐慌**が発生した。

①原因→〔2　　　　　　　　〕（9月1日午前11時58分）
マグニチュード7.9〔震度7〕の直下型地震が発生。
火災や津波も合わせ，
東京市・横浜市を中心に1府6県で被害総額60億円以上，
死者・行方不明者10万5000人余り。
※東京府・神奈川県に〔3　　　　　　〕を発令。

山本権兵衛

②経過→**第二次山本権兵衛内閣**の対策
A　緊急勅令による**1か月間のモラトリアム〔支払猶予令〕**
B　**震災手形割引損失補償令**
震災手形を抱える市中銀行に対する日本銀行の特別融資（約4億3000万円）と，
それによる日銀の損失に対する政府の補償（1億円)。

③結果
度重なる日銀の救済融資により日本経済は弱体化し，慢性的不況が定着。
A　決済不能の震災手形（＝関東大震災により支払い不能になった手形）が残存
1926年の段階で未決済額は約2億円。
※実際には震災に直接関係のない手形も含まれていた。
B　復興のための膨大な国家支出
東京に帝都復興院を設置。総裁には東京市長経験者の後藤新平内相が就任。
※輸入が急増，国際収支は大赤字となり外貨も著しく減少。
C　インフレーションの発生
不況下にインフレが発生し，スタグフレーション状態となる。
D　**財閥の成長**
企業連合〔カルテル〕・企業合同〔トラスト〕や資本輸出の進行。

まとめ
戦後恐慌は，第一次世界大戦終結によるヨーロッパの復興が原因だった。
戦後恐慌は予測通りに起こったが，震災恐慌は予測不能だった。

第19講　PART 1　確認問題

1　中国・東南アジア・アフリカ市場向けの輸出が伸張した品目はどれか。

①　綿織物　②　絹織物
③　麻　④　生糸

2　アメリカ市場向けの輸出が伸張した品目はどれか。

①　綿糸　②　生糸
③　綿織物　④　絹織物

3　第一次世界大戦期に勃興した工業はどれか。

①　機械工業　②　食料品工業
③　化学工業　④　金属工業

4　第一次世界大戦時に発達した発電方法はどれか。

①　火力発電　②　水力発電
③　風力発電　④　原子力発電

5　戦後恐慌時の出来事として**適切でないの**はどれか。

①　株価の暴落　②　生糸・綿糸相場が暴落
③　輸出超過　④　工場の操業時間短縮

6 原敬内閣は市中銀行に多額の救済融資を実施したが，
これはどこを通じて行われたか。

① 第一国立銀行　② 台湾銀行
③ 横浜正金銀行　④ 日本銀行

7 震災恐慌が発生したときの内閣総理大臣はだれか。

① 山本権兵衛　② 加藤友三郎
③ 田中義一　④ 高橋是清

8 震災恐慌の際，緊急勅令に基づきモラトリアム〔支払猶予令〕が出されたが，
その猶予期間はどれか。

① 半月間　② １か月間
③ ２か月間　④ ３か月間

第 19 講　PART 1　確認問題 解答

1 解答：①　中国・東南アジア・アフリカ市場向けへは，綿織物のほか綿糸の輸出が伸張した。

2 解答：②　当時のアメリカは**好景気**だったため，生糸の輸出が伸張した。

3 解答：③　敵国となった**ドイツ**からの輸入が途絶したため，薬品・染料・肥料などの国産化を目指して，化学工業が勃興した。

4 解答：②　1915 年，猪苗代水力発電所（福島県）～東京間の長距離送電に成功したこともあり，**水力発電**が発達した。

5 解答：③　戦後恐慌時，ヨーロッパ諸国の復興により，輸出が不振となって輸入超過となった。

6 解答：④　市中銀行に多額の救済融資を実施したものの，財界の整理や企業の合理化が十分進まず，国際競争力が付かないまま不況は長期化した。

7 解答：①　**山本権兵衛**は，モラトリアム〔支払猶予令〕や震災手形割引損失補償令を出した。

8 解答：②　「モラトリアム」は猶予期間をも意味する。